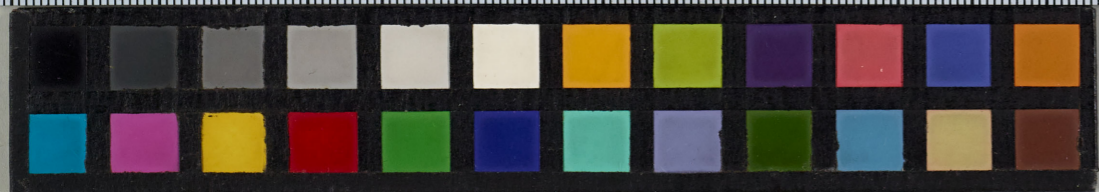


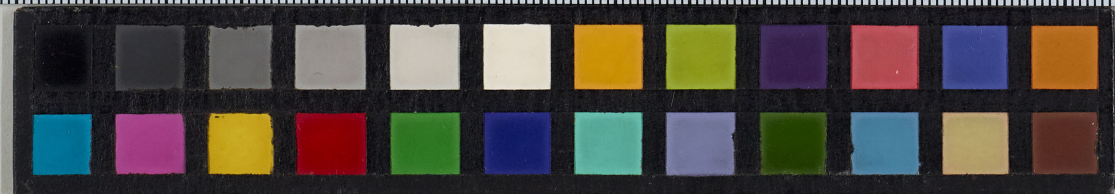
IGY期間に出現したオーロラのスケッチ



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



IGY期間に出現したオーロラのスケッチ



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



IGY 期間に出現した  
オーロラのスケッチ

IGY(1957-58年の国際地球観測年(International Geophysical Year)の略称)  
期間中には、日本北部でも数回オーロラが観測された。ここに集録したものは、  
各地の観測者によるスケッチで、当時、東京天文台に報告され、保存されていた  
ものである。

当時の大気光世界資料センター長であり、オーロラ観測を指導された  
故 古畑正秋先生に捧ぐ。

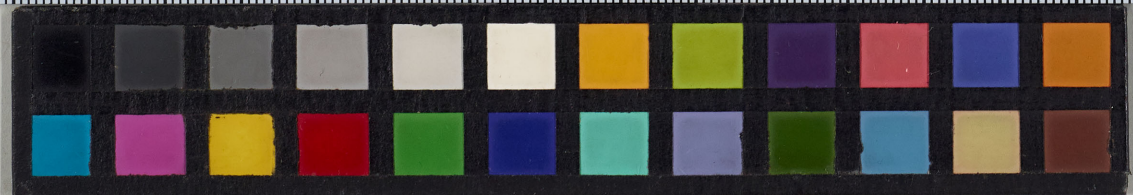
国立天文台  
大気光世界資料センター  
(World Data Center C2 for Airglow)  
編集：田中京子



1 9 5 7 年 (昭和32年) 7 月 5 日

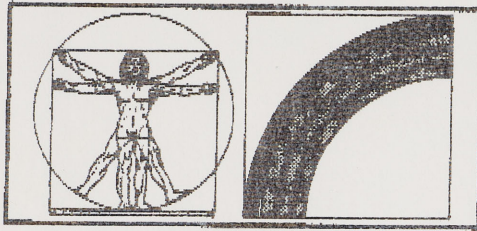
礼文島 船泊村

20 時~21 時の間



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





HBI DESIGNING OFFICE, TOKYO.

有限会社 エッチビーアイ 〒135 東京都江東区北砂3丁目14-5  
電話 645-9327 FAX.647-4288

0422-41-3690 (FAX)  
国立天文台・太陽活動と世界資料解析センター DATE. '90-05-22

田中京子 様

先日は御連絡有難うございました。その後、写真4枚と当時の送状コピー、  
確かに受領いたしました。大変な御手数だったこと存じまして、改めて  
申訳は恐縮いたしました。

お礼状は、写真に添えて3枚の合は、私本人が描いたもので、  
記憶しきれない部分は、はたきにて描き、物事自体が驚きです。  
気象台の送り状も初見拝見いたしました。日本気象の事務処理能力  
の高さにあらためて驚き入る状態です。文中に、「観測者大塚  
重助 長男、再恩」とありますが「三男」の誤りです。

記憶には、当時の地方新聞「京谷新聞」にも、私と同時に見られた。  
私と友人道下氏の話を描いて、記事にはなっていないです。  
そのころ、おじいさんの話も描きはじめ、最初は1番高輝度状態  
の絵を描いたが、70センチあたりが暗いかと思われ、輝度の弱  
みは行状を順に描いていくつもりです。

いづれにしても、私の描いた絵が石谷に立ちはたつたのは、嬉しい限り  
です。ただ、申訳はいろいろ、今日には写真の復写の機会が  
与えられず、辛いことです。

お送りいただいた写真は大変良く写っていて感心致しました。さらに  
複製の際は、お大げな時、おそれば良いか御教示願うことは  
幸いです。

お礼状おかけしました。

22日

大塚 再恩

1/1 END

事務連絡

昭和32年8月17日

気象庁測候課長 殿

札幌管区気象台技術部長

オーロラ観測報告について

(昭和32年7月31日事務連絡回答)

7月5日礼文島に於て観測されたオーロラについて観  
測者の学生が稚内測候所へ送られたので、御送りし  
ます。

尚現象観測結果の信頼性について稚内測候所より次  
の様報告があったので報告します。

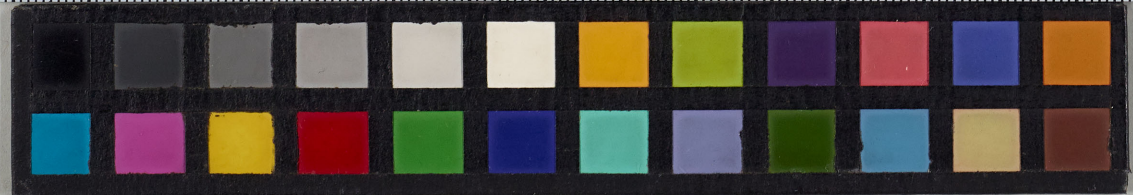
1. 観測者大塚重助氏は船泊村役場に勤務し、又  
同氏の長男聰君は船泊中学校3年生で、自然現  
象の観察に興味を持ち、かねてから稚内測  
候所からオーロラの観測通報を依頼にあつたも  
ので観測結果の信頼性は充分あるものと思  
はれる。
2. 他に船泊村にて同じ現象を確認したものの多数  
あり。





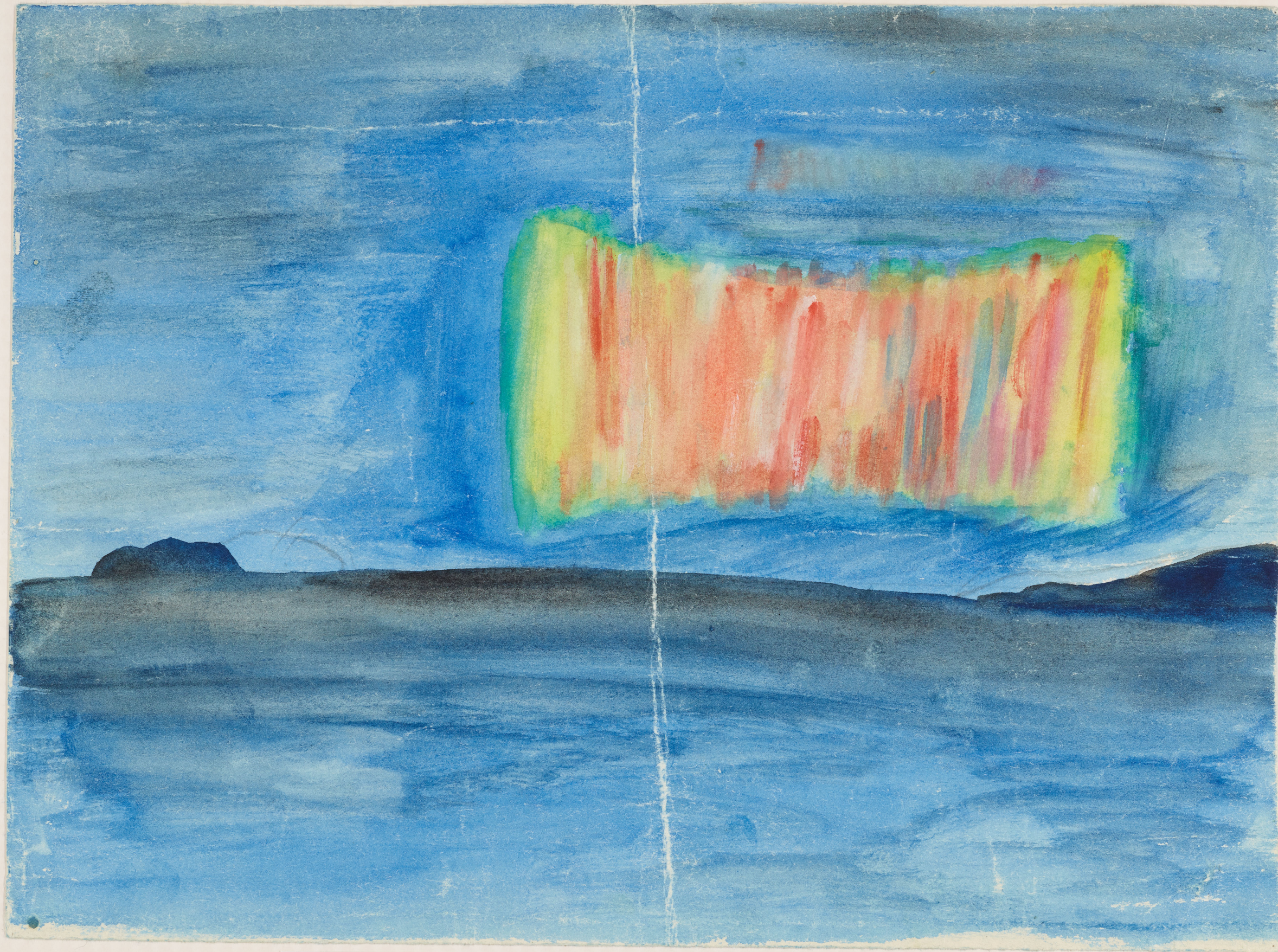


左 海驢島 右 金田ノ岬 1957年7月5日 20時~21時 礼文島 大塚 聡

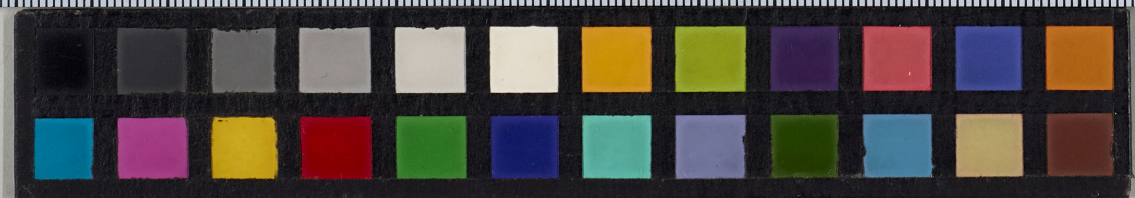


「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





左 海驢島 右 金田ノ岬 1957年7月5日 20時~21時 礼文島 大塚 聰

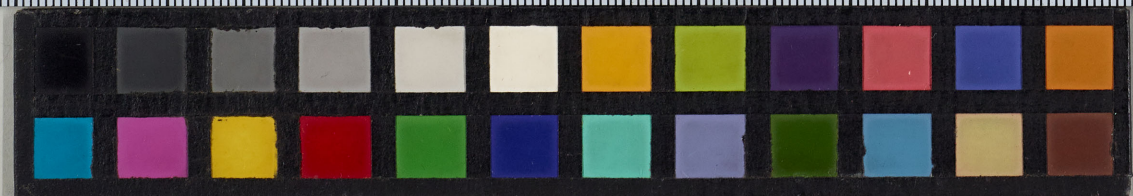


「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





左 海驢島 右 金田ノ岬 1957年7月5日 20時~21時 礼文島 大塚 聡



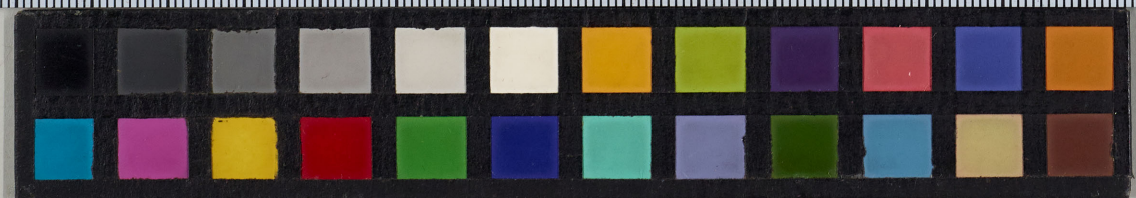
「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



1 9 5 7 年 (昭和32年) 9 月 13 日

稚内地方気象台

19時38分~20時09分の間



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



前略御免下さい。  
昨日ご書面拝見致しました。  
お申越しのスケッチ集の製本につきお  
てき方では差支えございませんので何卒  
ご自由にお使え下さりませ。

随分古い55年位前の現象ですので  
忘れられた事もありますか。風力塔で観測  
したあの美しい初めて見た現象に感動  
したことは今も思いおされます。

大変不承なスケッチで貴台の資料  
集に大したお役に立つことが出来ませ  
ぬでしょうか。一に苦しく存じております。

なお和気气象台の当時の観測野帳・  
月表原簿の記事欄にその時の現象  
説明が記されているかも知れませんので  
念の為申添えます。

ご関係皆様のご活躍と健斗をこ  
祈念申し上げます。 草々頓首

2月29日

東京大学

追伸

ご書面同封ありました封筒、開封の  
際破損しましたので送付の封筒を  
使用致しましたのでご容赦お預りませ。

田中京子様

永田様

東京大学



オーロラ観測 昭和32年9月13日 自19時38分 至20時09分 稚内地方気象台

時刻  
19時38分 ~ 20時09分

最輝部  
19時52分

方向 測風塔より  
NNW(335°) ~ NE(103°)  
最輝部 350°

高度 上部 高度角 24°  
下部 " " 7.5°  
最輝部 " " 10°

明く 最輝部附近輝度階級④  
実際にはこの基準よりは明くはな

型 1 大分群 (QA)  
静穏な波状の  
2 小分群 (HA)  
一極互静かな波状の

色 赤色 (一部)  
(一部附近は暗紅色、赤色)  
色以外の色は全くな

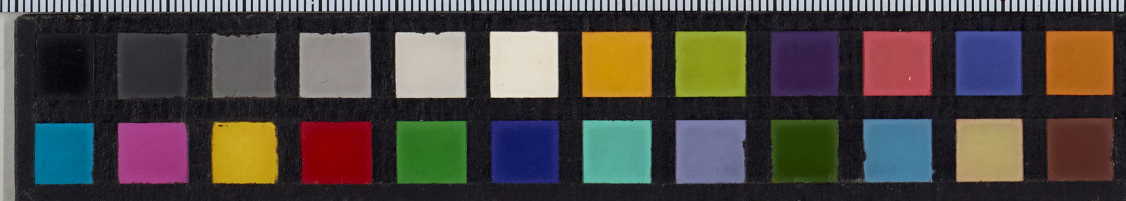
パルセーション  
なし

その他  
○ 最輝部北西側に北斗七星の最初の  
星の2つ(α,β)の格差星がオーロラ  
の北西上部内に存在した  
○ 高度角8°~9°にC<sub>1</sub>(緑雲)  
が東西に伸びていた  
○ オーロラ上部にはC<sub>2</sub>(緑雲)が  
N~NNEにははっきりしたものが2つ  
細長く天頂に向かって伸びていた  
○ 観測所付近暗くはついでに  
(観測場所のすぐ前が繁華街の爲、川の  
明りまで水平線上の光の状況かはついでに  
不明であった)

観測者 成田月永 望井 勲 佐々木昌三  
増山良作 窪裕文

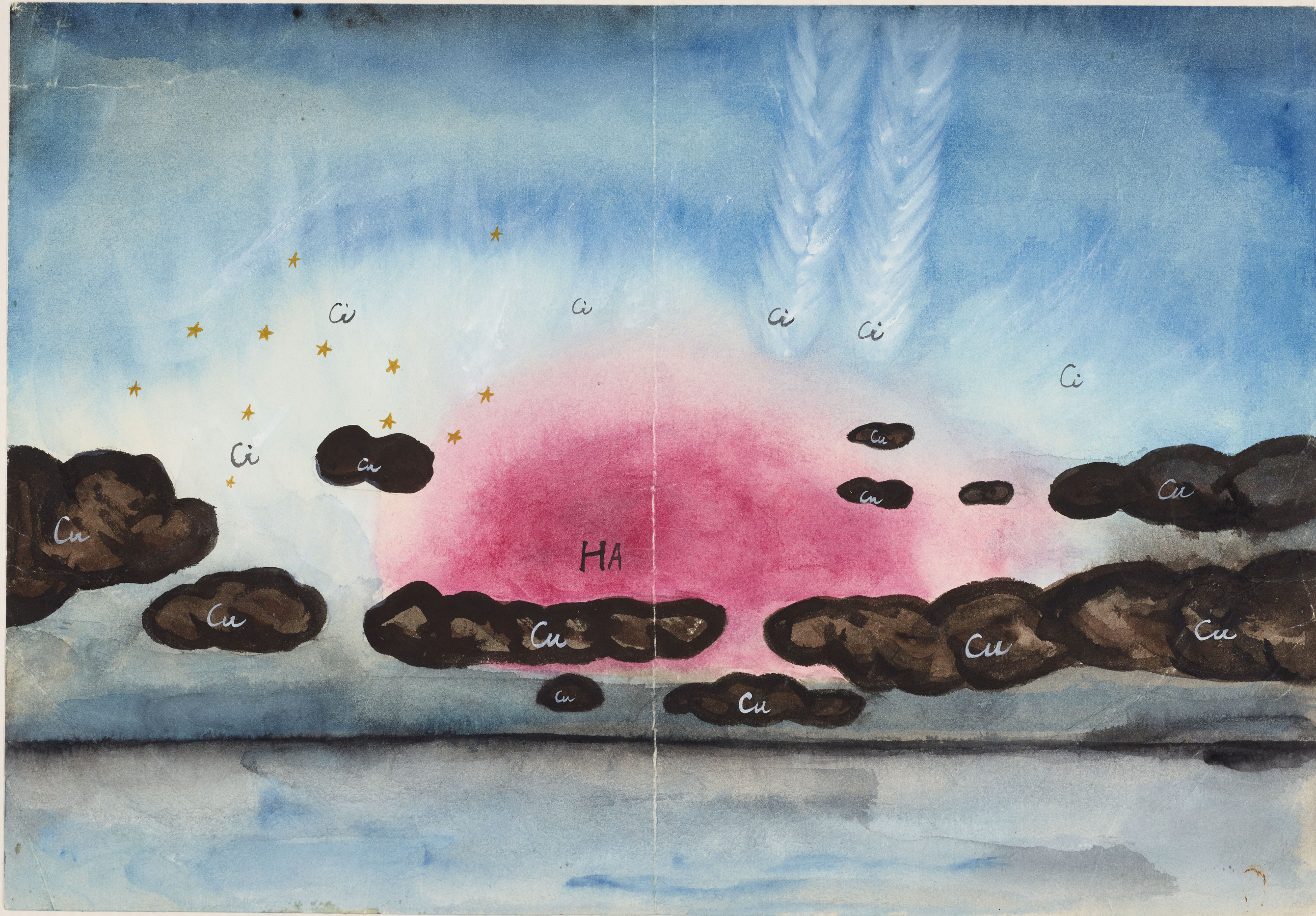
スケッチ  
成田月永

稚内地方気象台

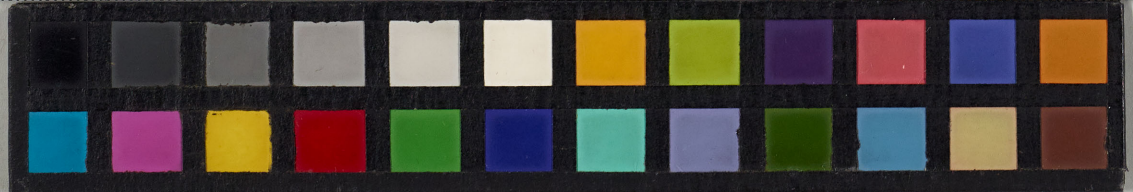


「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





1957年9月13日 19時38分~20時09分 稚内地方気象台 成田 月昶



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」

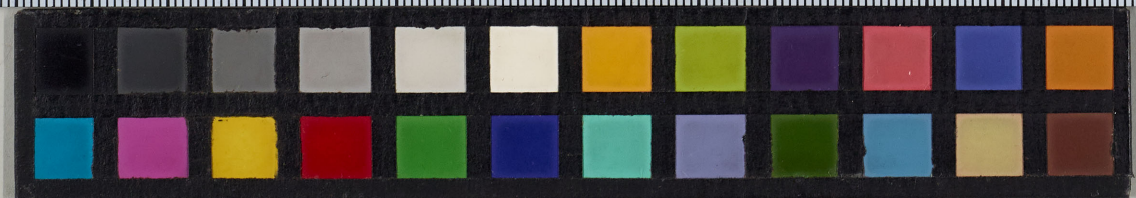


1 9 5 7 年 (昭和32年) 9 月 13 日

留萌測候所

19時40分~22時05分

当時は作者不明でしたが、2002年に北海道新聞社記者椎名宏智氏のご尽力により、作者が 元留萌測候所の島田泰生氏と判明しましたので追記致します。



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



拝啓

お手紙拝見しました  
あやふさふさな字で書けよはあはれい下さ

道新の雅名をいかに突然覚悟をわけ  
来りて不い口ろの語しをさしわをく  
訪内して預王語して向王若を思ひ  
おす事かお束言した

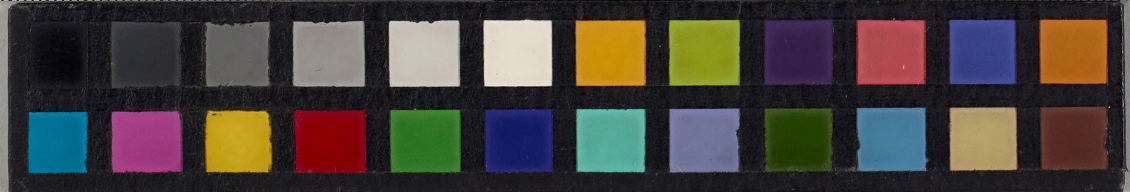
雅名をいにもお察しとありすたか  
私に思ひおさして残ししおさすい  
寫真を頂きたいと思つてありすたか

誠に勝手なお願いすたか  
二枚のスケッチの寫真を頂けよは  
おすことす

島田 拜

後部 様

送付 6/18



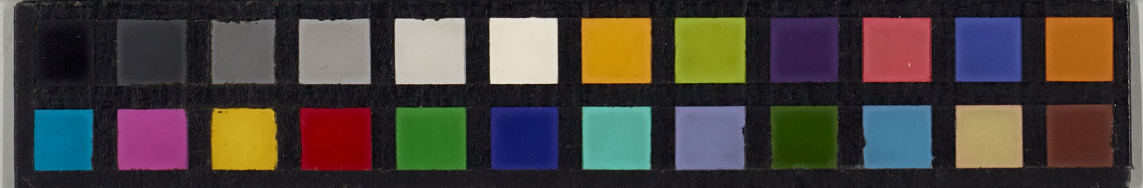
「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



留萌 9月13日 19時40分頃



1957年9月13日 19時40分 留萌測候所 島田 泰生

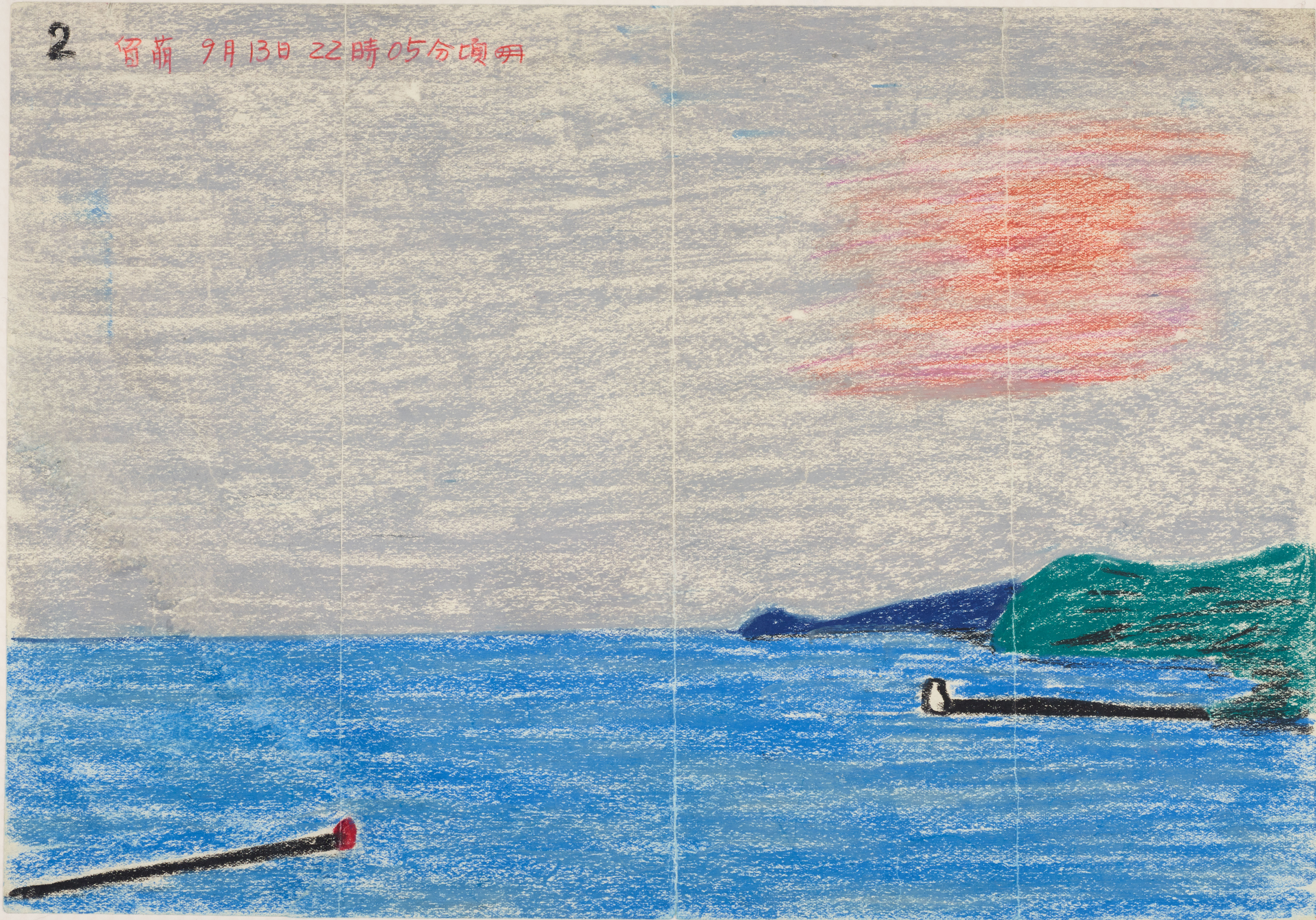


「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」

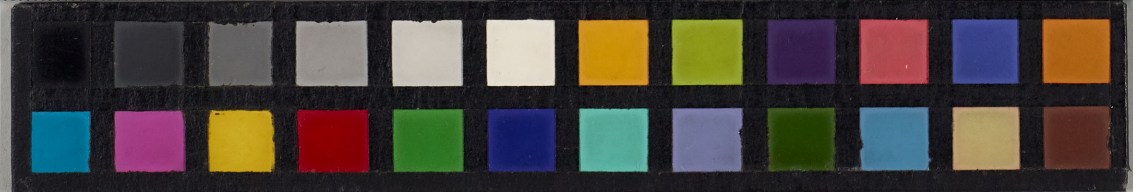


2

留萌 9月13日 22時05分頃 明



1957年9月13日 22時05分 留萌測候所 島田 泰生



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」

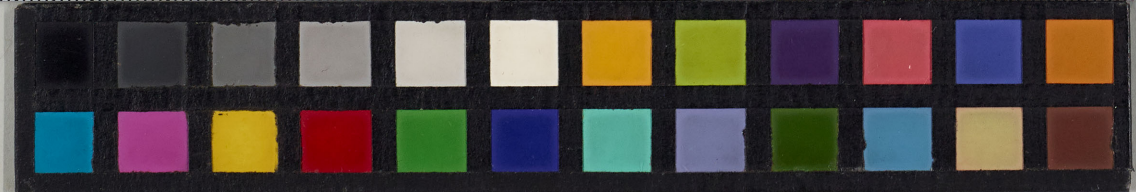


1 9 5 7 年 (昭和32年) 9 月 13 日

旭川天文台

20時10分頃

堂本義雄氏より、古畑正秋先生に送られたスケッチ



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





No. 1

拝復

2月17日着を以つて、御芽書並にオーロラのスケッチ(複写)を  
拝受いたしました。

お申越し賜りました、私の1957年9月13日夕オ観望いたし  
ましたオーロラのスケッチは御芽書のように当時貴台の  
分室部長 古畑正秋 先生にご送付申しあげましたものであります。

この拙いスケッチがご研究上、お役に立つておられることを  
拝承いたしました。このスケッチがこのたび関係資料の中に加えら  
れる由にて、誠に老栄に存じております。このことにつきまして先日、  
お電話でもご連絡申しあげましたが、スケッチでご報告いたしま  
した時からお委せいたしましたことで、授權などはその当時から既に  
ご委譲申しあげております。今後ともご自由にお役に立てて頂いて  
結構に存じております。

ます"はお申越し賜りました件について ご返信申しあげます。

敬具

1992年3月2日

国立天文台、老赤外線系、大気圏外資料解析センター

田中京子様  
侍史



No. 2

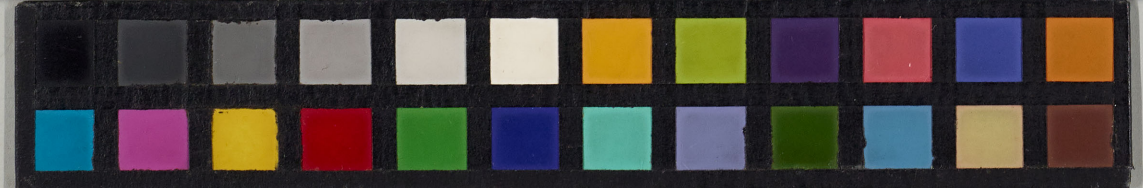
九州市近文町13丁目 堂本義雄 拝

追啓

ご返信が大へん遅れましたことをお詫び申し上げます。

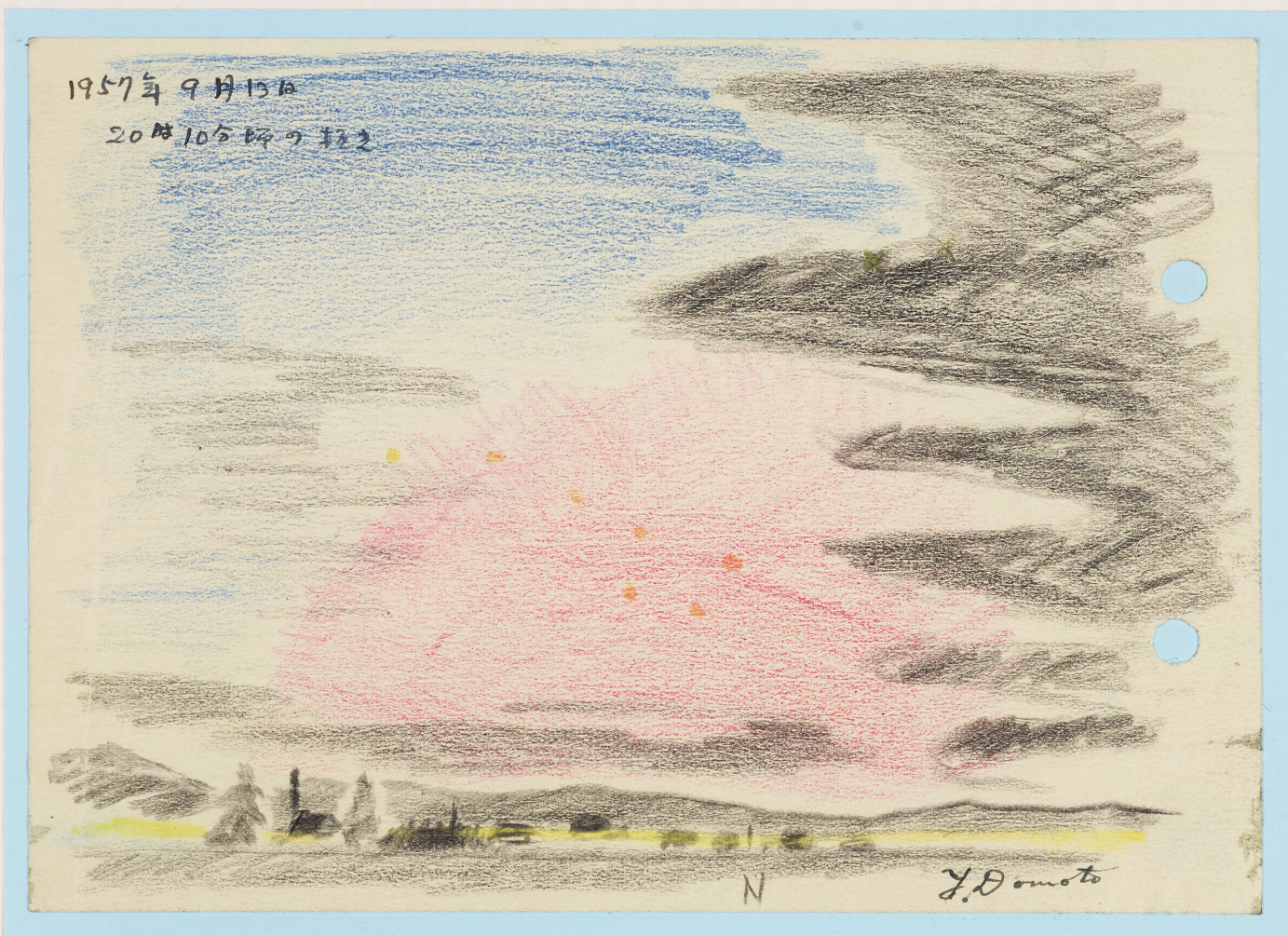
お電話連絡だけでは充分でないと存じました。

思えば なつかしいスケッチでございました。

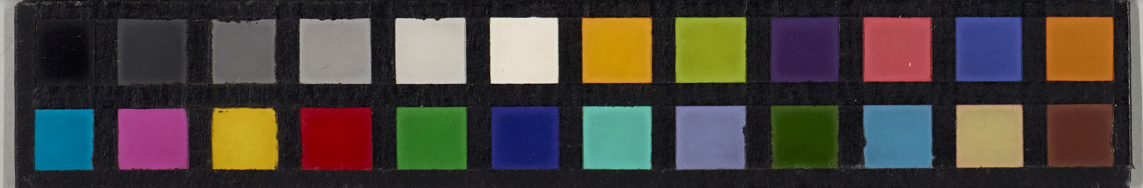


「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」





1957年9月13日 20時10分 旭川天文台 堂本 義雄



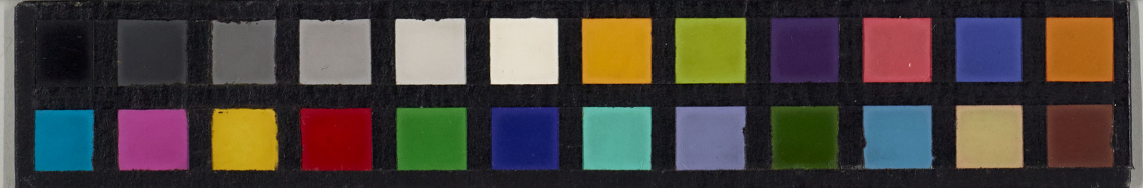
「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



1 9 5 8 年 (昭和 33 年) 2 月 11 日

新潟市 学校町浜

21 時 05 分 ~ 21 時 25 分の間



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



1992年2月17日

国立天文台  
田中京子様

拝復

2月12日付御手紙拝受いたしました。

30数年前に見られたオーロラの私の雑描なスケッチが保存され、先生方が時々見て下さっているとか聞いて、大変嬉しくお光栄に感じております。あの時見たオーロラは今でも鮮明に思い出さることができずすが、水平線上に広がる暗赤色の非常に神秘的なものでした。今回いただいた写真を見ると、水彩で簡単にピンク色で描いてしまふ。あの神秘的な色合いが全く描けていなかったことを後悔いたしました。もっとも当時は自分のスケッチが永く保存されるような資料になるなどとは夢にも思っておりませんでしたので、あれ執筆する気持ちではありませんでした。

いずれにせよ永く保存していただければ光栄でございますので、よろしくお願ひいたします。著作権等のことは全く存じありませんので、御随意にお取扱い下さい。

先生方の御研究の発展をお祈りいたします。 啓

岡田 敏

東京大学

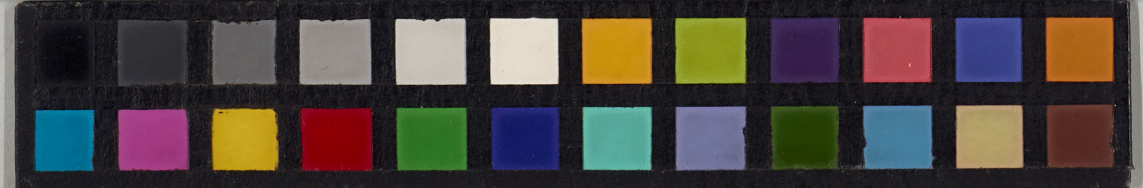
前略 私は高校二年生で天文学等に興味を持って  
いる者でございますが、昨日1958年2月11日極光らしいものを  
観測いたしました。関係者の方々は常々広く観測記録を  
送っていると聞き、お役に立つかどうか分かりませんが、私の観測をお  
送りすることにしました。私もこの光が何であるか知りたいと思っ  
ていますので、御答をいただければ幸と申します。

観測日時 1958. 2. 11. 2105 ~ 2125 (20分間)

ラジオのニュースを聞いて海岸へ出て行ったのは2105分  
でした。そこには学生団のような赤い光が見られました。光は大き  
く二段に分れていて、その中間は全く発光していません。  
雲があったためか、あるいは雲はないのか判断は出来ません  
でした。光は下段、尖突の光のうっすらと雲のようを感じて、目か  
るさは相当なもので誰にも分かるものでした。学生団は少し明るく  
なり過ぎてしまいました。これを ~~観測した~~ 目を最も細  
くして見るとよいです。光の形はかなり正確なもので、一見光  
の幅は60~70°くらいですがよく見ると80~90°ほどに  
も広がっているのが分ります。私の観測していた20分間  
にはほとんど光が明かるさ、形も変わった様子はありません  
でした。高さは最上部が10°位で、これは正接を測って  
おいて後で計算いたしましたので、正確だと思ひます。

光の最も明かるい部分は、上段の光では真北から南へ5°  
くらい離れたところ、下段では真北から西へ10°くらい行っ  
たところにおりました。観測をやめて帰る21時25分には光は相  
変わらず消えています。その後何時消えたかは分りません。

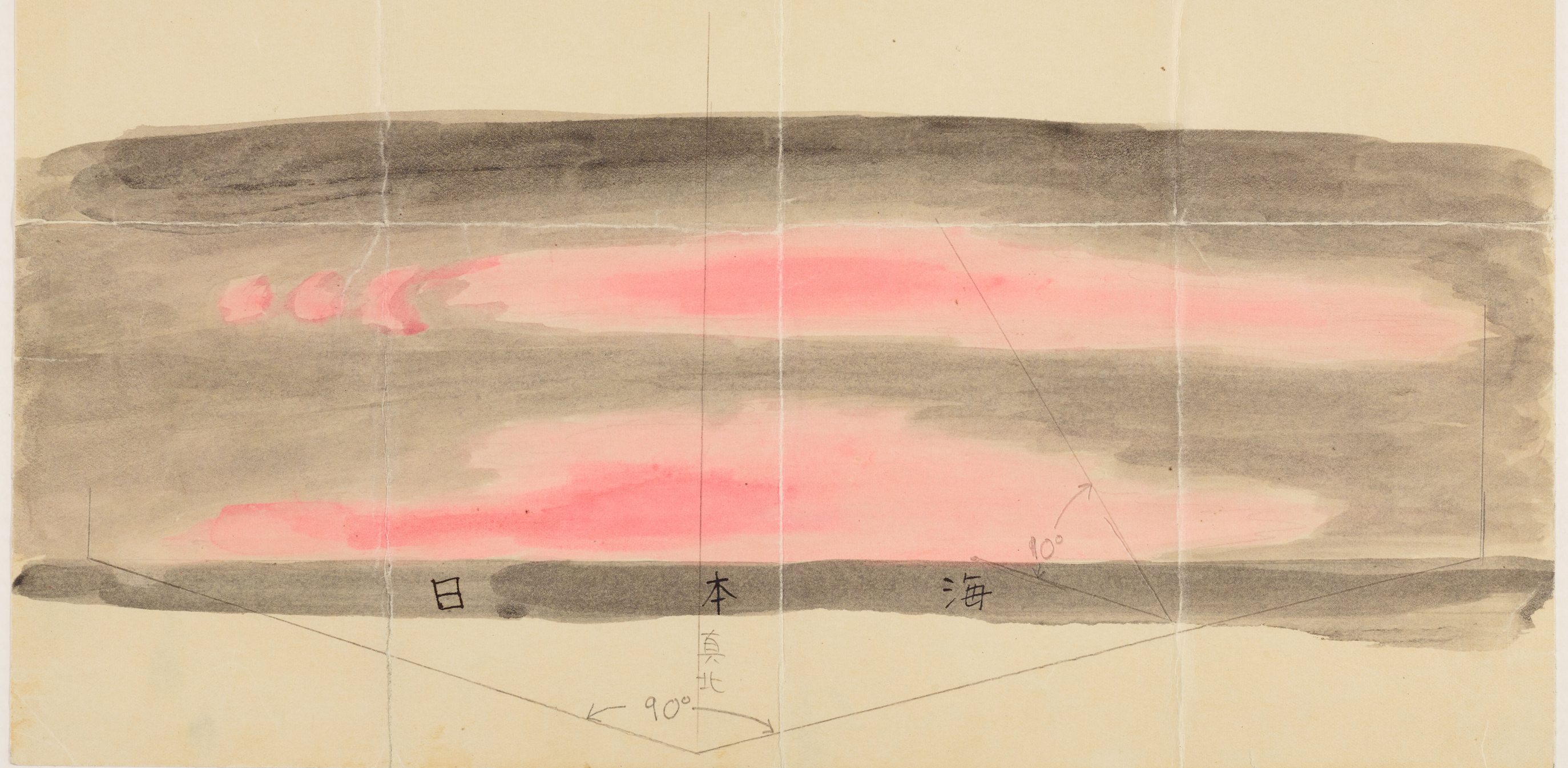
このような観測をするのは初めてなので、自信がありませんが、少しでも  
研究のお役に立てば幸と申します。



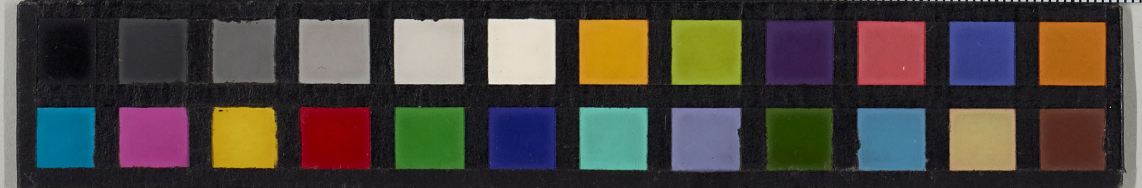
「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」



1958年 2月11日(火) 21時20分  
観測地 新潟市 学校町浜  
観 者 風間 繁 (新潟高等学校 2年在学中)  
天候 うすぐもり この光の見えた方向にも雲があったかどうかは分らない。  
微風



1958年2月11日 21時05分~21時25分 新潟市 学校町浜 風間 繁



「IGY期間に出現したオーロラのスケッチ」 「国立天文台所蔵」